行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28年度

事業名	河川・水路整備事業	担当課	建設課
細分化した事業名			

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	誰もが安心して暮らせるまちづくり
	政策	安全・安心に生活できる地域体制の構築
	施策	治山・治水の推進
関連する個別計画等		根拠条例等：河川法

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	水害等を未然に防ぎ、安心・安全なまちづくりに寄与する。
事業の手段	市の単独工事として、市内の老朽化した河川・水路の整備工事を実施する。
事業の対象	地域住民

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	17,002	25,318	24,994
財源内訳	国・県支出金			
	その他（使用料・借入金ほか）			18,100
	一般財源	17,002	25,318	6,894
B 担当職員数（職員 E）	（人）	0.37	0.37	0.53
C 人件費(平均人件費×E)	（千円）	2,402	2,514	3,559
D 総事業費(A+C)	（千円）	19,404	27,832	28,553

主な事業費用の説明	河川・水路整備工事費

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 25 年度（6,491 円）,26 年度（6,794 千円）,27 年度（6,715 千円）を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	26 年度	27 年度
活動指標	1	改修工事計画件数	当初の工事予定件数（件）	7	12	11
	2	改修工事実施件数	年度末工事実施件数（件）	7	12	11
	3	工事実施延長	年度末工事実施延長（m）	216	335	379

妥当性		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	市内の老朽化した水路の改修を行うことで、水害を未然に防ぐことができる。
	2	
	3	

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				25 年度	26 年度	27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	改修率（%）	工事実施件数／工事予定件数	100	100	100
	2					
	3					

成 果		□ A 上がっている ■ B ほぼ上がっている □ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	工事は、全て年度内に発注することができ、水害を未然に防ぐことができた。
	2	
	3	

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成 ■ B 期待どおりに達成 □ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する） ■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要） □ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか） 28 年度の改善計画（今後の事業展開説明） 地域住民の意見・要望を取り入れた中で、財政面の状況も踏まえつつ、今後も、引き続きコスト縮減に取り組みながら事業進めていく。
過去の改善経過	コスト縮減による計画的な整備。
課長所見	各地区で老朽化が進んでいるので、一層のコスト縮減と、継続箇所においては、できるだけ早期完了を図る。